

平家物語木曾の最期確認テストその一 次の文章について後の間に答えなさい。

- ①今井四郎、木曾殿、主従二騎になつて、（のたまふ）けるは、「日ごろは何ともおぼえぬ鎧が、今日は重うなつたるぞや。」②今井四郎（申す）けるは、「御身もいまだ疲れさせたまはず、御馬も弱り候はず。」③何によつてか、一領の御着背長を重うはおぼしめし候ふべき。④それは、御方に御勢が候はねば、臆病でこそさはおぼしめし（候ふ）。⑤兼平一人候ふとも、余の武者千騎とおぼしめせ。⑥矢七つ八つ候へば、しばらく防き矢つかまつらん。⑦あれに見えどに、⑧また新手の武者、五十騎ばかり出で来たり。⑨「君はあの松原へ入らせたまへ。」⑩兼平はこのかたき防き候はん。」と申しければ、⑪木曾殿のたまひけるは、「義仲、都にていかにもなる（べし）つるが、これまで逃れ来るは、なんぢと一所で死なんと思ふためなり。」⑫とこころどころで討たれんよりも、ひとところでこそ討ち死にをもせめ。」とて、馬の鼻を並べて駆けんとしたまへば、⑬今井四郎、馬より飛び下り、主の馬の口に取りついで申しけるは、⑭「弓矢取りは、年ごろ日ごろいかなる高名候へども、最後のときは不覚しつれば、長き疵にて候ふなり。」⑮御身は疲れさせたまひて候ふ。⑯続く勢は候はず。⑰かたきに押し隔てられ、言ふかひなき人の郎等に組み落とされさせたまひつる木曾殿をば、それがしが郎等の討ちたてまつたる。」⑲なんど申さんことこそ、くちをしう候へ。⑳ただあの松原へ入らせたまへ。」と申しければ、・木曾、「さらば。」とて、栗津の松原へぞ駆けたまふ。
- 問一、文中の（　）の語を適切な形にして記しなさい。
問二、| 部の読み方を現代仮名遣いでひらがなで記しなさい。
問三、| 部の文法的意味・終止形・活用形を記しなさい。
問四、□の「候ふ」の活用形をそれぞれ記しなさい。
問五、文番号④・⑯の| 部を次の現代語訳に従つて傍線注釈しなさい。
④味方に軍勢がないので
問六、| 部の語の敬語の種類と誰から誰への敬意（敬意の方向）かを記しなさい。
ただし、敬意の方向は次から選び記号で答えること。
(ア)木曾殿 (イ)今井四郎 (ウ)作者 (エ)郎等
問七、文番号⑥の「しばらく防き矢つかまつらん」を現代語訳しなさい。
問八、文番号⑪の「なんぢと一所で死なんと思ふためなり」を現代語訳しなさい。
問九、文番号⑫の「馬の鼻を並べて駆けんとしたまへ」とあるが、どうしてそのような行動をしたのか、次から選び記号で答えなさい。
(ア)追っ手が来るので、先をいそいで逃げようとしたから。
(イ)先にいる敵を自分が先に討とうと思って急ぎたかつたから。
(ウ)今井四郎と同じところで討ち死にをしたかつたから。
(エ)今井四郎と一緒に生き延びたかったから。
(オ)木曾殿と一緒に戦つて討ち死にしたかったから。
- 問十、文番号⑯の「最後の時の不覚」というのはどうなることか。具体的に記しなさい。
問十一、文番号②では「木曾殿は疲れていない」と言っているのに、何のために⑯では「疲れている」と言っているのか？

1年組番名前

D/N